

1 ごみの排出・処理状況

(1) ごみの排出状況の一覧

	平成 28 年度	平成 29 年度	対前年度※
ごみ総排出量	232.3 万トン	230.4 万トン	△0.8%
県民 1 人 1 日当たりのごみ排出量	867 グラム	858 グラム	△1.1%
県民 1 人 1 日当たりの生活系ごみ排出量	623 グラム	618 グラム	△0.9%
事業系ごみ排出量	53.6 万トン	53.4 万トン	△0.3%
人口	734 万人	736 万人	+0.3%

(2) ごみの処理状況の一覧

	平成 28 年度	平成 29 年度	対前年度※
リサイクル量	56.6 万トン	55.3 万トン 55.2 万トン	△2.4% △2.6%
リサイクル率	24.5%	24.0%	△0.5 ポイント
最終処分量	10.4 万トン	10.0 万トン	△3.6%
県民 1 人 1 日当たりの最終処分量	39 グラム	37 グラム	△3.9%

※端数処理により、計算が合わないことがあります。

2 施設整備状況

(1) ごみ焼却施設の状況

- 平成 29 年度に新設されたごみ焼却施設は以下の 1 施設です。
飯能市クリーンセンター（平成 29 年 12 月 20 日稼働）
- 県内市町村の稼働施設数 47 か所（処理能力 9,404 トン／日）
- 発電施設を有する施設 18 施設（発電能力 9.4 万 kW）

(2) 最終処分場の状況

平成 29 年度に新設された最終処分場はありません。

- ・最終処分量 10.0 万トン／年（うち県内処分量 4.3 万トン／年）
- ・最終処分場の残余容量（平成 29 年度末） 192 万 m³
（うち県環境整備センター 110 万 m³）

※ 上記の残余容量は、約 29 年分の最終処分量に相当します。

3 廃棄物処理事業経費の状況

年間の県民 1 人当たりのごみ処理費用は 13,288 円で、前年度に比べて 1.1%減少しました。

- ・県民 1 人当たりのごみ処理費用 13,288 円（前年度 13,433 円） [1.1%減]※
- ・ごみ処理事業経費 978 億円（前年度 986 億円） [0.8%減]※
- 【うち主な費用】 処理・維持管理費 809 億円（前年度 808 億円） [0.1%増]※
建設改良費 130 億円（前年度 137 億円） [5.0%減]※

※端数処理により、計算が合わないことがあります。

4 3R取組の県内ベスト5

リデュース（廃棄物の発生抑制）やリサイクル（使用済み製品等の原材料としての再生利用）などに関して、県内で上位の市町村は次のとおりです。

なお、リユース（使用済み製品の再使用）については、廃棄処分前の活用となるため、集計の対象としていません。

	市	町村
リデュース (1人1日当たりのごみ排出量) ※県全体 858 グラム/人・日	1 上尾市 715 グラム/人・日	1 東秩父村 669 グラム/人・日
	2 富士見市 732 グラム/人・日	2 横瀬町 743 グラム/人・日
	3 蓮田市 742 グラム/人・日	3 皆野町 748 グラム/人・日
	4 朝霞市 745 グラム/人・日	4 滑川町 753 グラム/人・日
	5 桶川市 750 グラム/人・日	5 吉見町 758 グラム/人・日

リ サ イ ク ル	マテリアル (リサイクル率) ※1 ※県全体 24.0%	1 加 須 市 38.8% 38.7% 2 朝 霞 市 34.1% 3 狭 山 市 32.2% 3 桶 川 市 32.2% 5 飯 能 市 31.2%	1 宮 代 町 39.4% 2 川 島 町 31.4% 3 小 川 町 28.9% 4 と き が わ 町 28.4% 5 吉 見 町 28.0% 5 東 秩 父 村 28.0%
	サーマル (ごみ焼却量当たり の 発 電 電 力 量) ※2	1 東 埼 玉 資 源 環 境 組 合 (第 二 工 場) 688 kWh/トン 2 東 埼 玉 資 源 環 境 組 合 (第 一 工 場) 542 kWh/トン 3 さ い た ま 市 桜 環 境 セ ン タ ー 504 kWh/トン 4 ふ じ み 野 市 ・ 三 芳 町 環 境 セ ン タ ー 432 kWh/トン 5 川 口 市 朝 日 環 境 セ ン タ ー 415 kWh/トン	

※1 日高市 (リサイクル率 99.7%) については、可燃ごみのほぼ全量を直接セメント原料として資源化しているため、リサイクル率のランキングに含めていません。

※2 複数の炉で発電している場合には合算しています。

5 県民の皆様へのお願い

県内の最終処分場の残余容量には限りがあります。また、限りある資源を有効利用し、地球への環境負荷を減らすためにも、更なるごみの減量化や再資源化を推進していく必要があります。

ごみの分別をしっかりと行うとともに、食べ残しや賞味期限切れ食品の廃棄などの食品ロスを減らし、使い捨てプラスチック製品の使用を控えるなど、できるだけごみを出さないライフスタイルを心掛けましょう。